

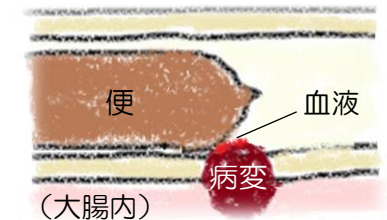
検査説明パンフレット

便潜血検査



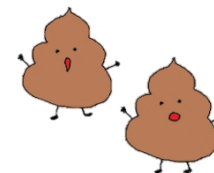
便潜血検査とは

大腸に出血があると便に血液が混じります。出血が多ければ目で見て判断できますが、少ない場合には見ただけでは判断できません。便潜血検査は、その混じった血液中のヘモグロビンを調べるため、目に見えない出血がわかります。潰瘍、がん、ポリープ、痔などで出血があると陽性になり、大腸がんの早期診断のためのスクリーニング検査としても用いられています。

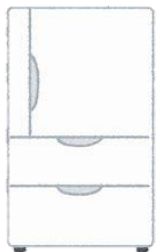


採便方法

がんなどでは出血する時とそうでない時があります。また、便中のヘモグロビンは壊れやすく不安定なため、採便してから提出まで時間がかかると、陰性あるいは低値になることがあります。このため、2 日間にわたって2 回便を採取して検査することで、より正確な結果を出すことができます。採取後はできるだけ早く提出することが望ましく、当日提出できない場合は冷蔵庫で保存をお願いします。



冷蔵保存

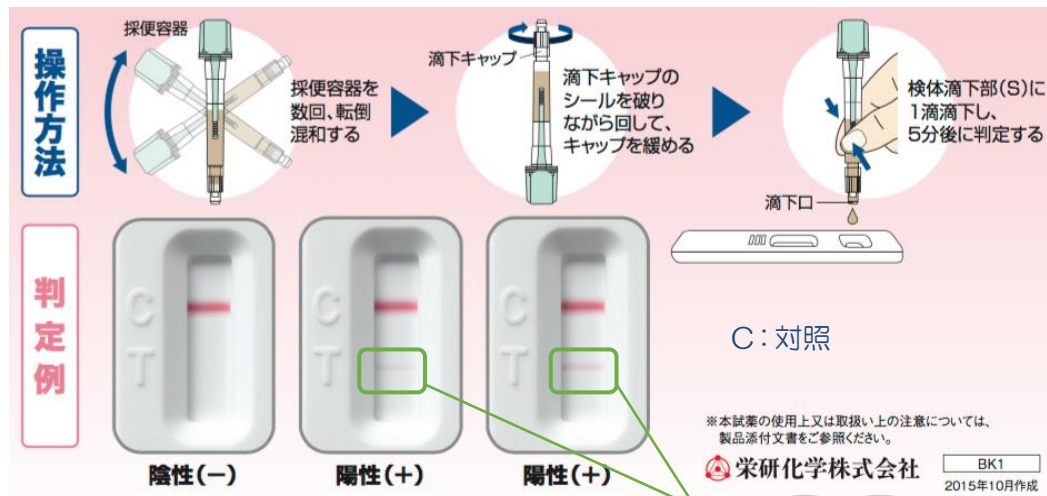


検査方法

当院では専用のキットを用いて検査を行っています。



OC-ヘモキャッチ®S'栄研' (栄研化学株式会社)



うっすらとでも線があれば
陽性となります

陽性 (+) : 採取した便の中に血液が混じっている
陰性 (-) : 採取した便の中に血液が混じっていない

便潜血検査の特徴と注意点

大腸がんの発見には便潜血検査と大腸内視鏡検査が有効です。精度の高い検査は大腸内視鏡検査ですが、体に負担がかからず費用も安価であることから、大腸がん検診では便潜血検査がよく用いられます。

便潜血検査が陽性となるには出血している病変があることが要因となります。ポリープやがんの場合、ある程度大きくならないと出血することが少ないため、便潜血検査では陽性となりにくいことがあります。そのため、便潜血検査が陰性だったからといって、「大腸がんではない」とは言い切れません。

また、便潜血検査は血液に反応する検査であるため、便自体に血液が含まれていなくても、生理中や痔のときに混入した血液が便に付着していると陽性になってしまうため、注意が必要です。

大腸がんは早期発見、早期治療が重要であるため、40 歳以上では年に 1 回便潜血検査を受診することが推奨されています。

便潜血検査が陽性となった場合には、大腸に何らかの病気がある可能性があるため、大腸内視鏡検査などの精密検査を受けることをお勧めします。

